

大阪市立榎本小学校 平成 26 年度 校長経営戦略予算【加算配付】配付申請書
【様式 3-3】
(補足説明資料 1)

「学校改革プラン」の設定

＊文中では、「補足説明資料」のことを「資料」と記述
23 年度～29 年度までの本校の改革を「資料 2 の＜図 1＞」のように設定している。本年は、Ⅱ期の中間点であり、トロイカ体制による学力・体力・心の育成を図る“建物構築”の充実期である。

Ⅱ期の取組…「生き抜く力」の育成

人生を生きている中で遭遇するであろう数々の困難を乗り越える力を、小学校教育ではどのように育成するのか。との命題に対し、本校ではその力を「生き抜く力」と定義し、その力は「資料 2 の＜図 2・イメージ図①＞」のように、学力・体力・心の相関関係の中から育成されたと考える。また、「生き抜く力」は、「資料 2 の＜図 3・イメージ図②＞」のような本校の取組や外部諸機関との総がかりで育成されるところ。各学年・各学級も「資料 2 の＜図 4＞」のような目標を設定して、「生き抜く力」の育成を図っている。(イメージ図①②の「ひかりの会」とは、本校の“若手育成の会”の名称である)

「心の力」の育成ー校長経営戦略予算（加算配付）

学力・体力を方向づけ、コントロールする「心の力」は、学力・体力と同時並行して育成する（三位一体改革）必要がある。でなければ、「何のための学力か」「何のための体力か」になる恐れがある。その「心の力」は、社会貢献の精神（命を思う心情）が基盤になってこそ、真価を発揮する。

「えのもと森プロジェクトチーム」の立ち上げ

昨年度から始めた“人と自然とのふれあいパーク”えのもと森活性化計画」を発展・充実させるために、プロジェクトチームが中心となり、全教職員の総意で、以下の取組を計画した。

「えの森」から発信する、心・校内のオアシス化計画（「資料 3」参照）

＜①～⑦の取組の必要性と効果＞

＊文中の○付数字は、資料 3 と対応

① …今後、児童の発想で森を管理・整備・整備・活用することにより、「与えられた森」から「自分たちの森」への意識が生まれ、「自分たちでやりとげた」という自尊感情が育成される。

② …⑥…100 年を有する歴史ある本校。古い環境を美しく整備する必要がある。「人と自然とのふれあい」「みんなの手づくり」という視点で、「えの森」で育てた草花の活用等を通して、児童・保護者・地域の思いが込められた“ぬくもりもある教育環境”にリメイクされ、生まれ変わる。その結果、児童・保護者・地域の自尊感情が育成される。

⑦…「3・11」は忘れてはならない日本人としての「心」。「東北のことを忘れないでほしい」（戸羽太・陸前高田市長）の願いを心に刻んで、「毎日が 3・11」という“思いをどう継承”していくのかが問われている。児童たちが日々世話をして、えのもと森で育てた草花を、地域が姉妹交流している陸前高田へ届けるといふ「花の交流」を通して、“思いの継承”がなされていく。“思いの継承”から、社会貢献の意識が生まれ、人を、命を思う心情へと昇華する。

以上の①～⑦の取組から育成された「心の力」は、「学力」「体力」を支える力となって還元され、児童の「生き抜く力」へとつながっていく。「根を養えば、樹は自ずから伸びる」（東井義雄）の如く、「心の力」の育成は、自ずから「学力」「体力」の伸びへと結実する。

＜具体的・客観的な検証の視点＞

- ・26 年度のいじめの件数が「0」になり、生活指導上の対応件数が「毎日 3 件程度」になる。
- ・「学テ」「体テ」の成績が昨年より上回り、学力向上、体力向上がなされる。
- ・保健室対応件数が「毎日 20 件程度」になる。以上、「運営に関する計画」に記載
- ・保護者の自尊感情が養われ、学校に対する信頼が深まるため、保護者対応件数も、著しく減少する。

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
第Ⅰ期			「学校運営の計画」(3年間)				
	校長マネジメントによる 学校の基盤建設(人権感覚)		「土台固め」				
第Ⅱ期			副校長モデル校(2年間)				
			校長・副校長・教頭(トロイカ体制)による 学力・体力・心の育成		“建物構築”		
第Ⅲ期			“特色ある学校の完成”			児童数 1000名突破の予想	
				“チームえのもと”による 超大規模校の学校づくり			

心・学力・体力の
相関関係から
「生きる力」を育む

えのものと森
(校長戦略)

心

学力

体力

ひかりの会
(国・算の授業づくり)

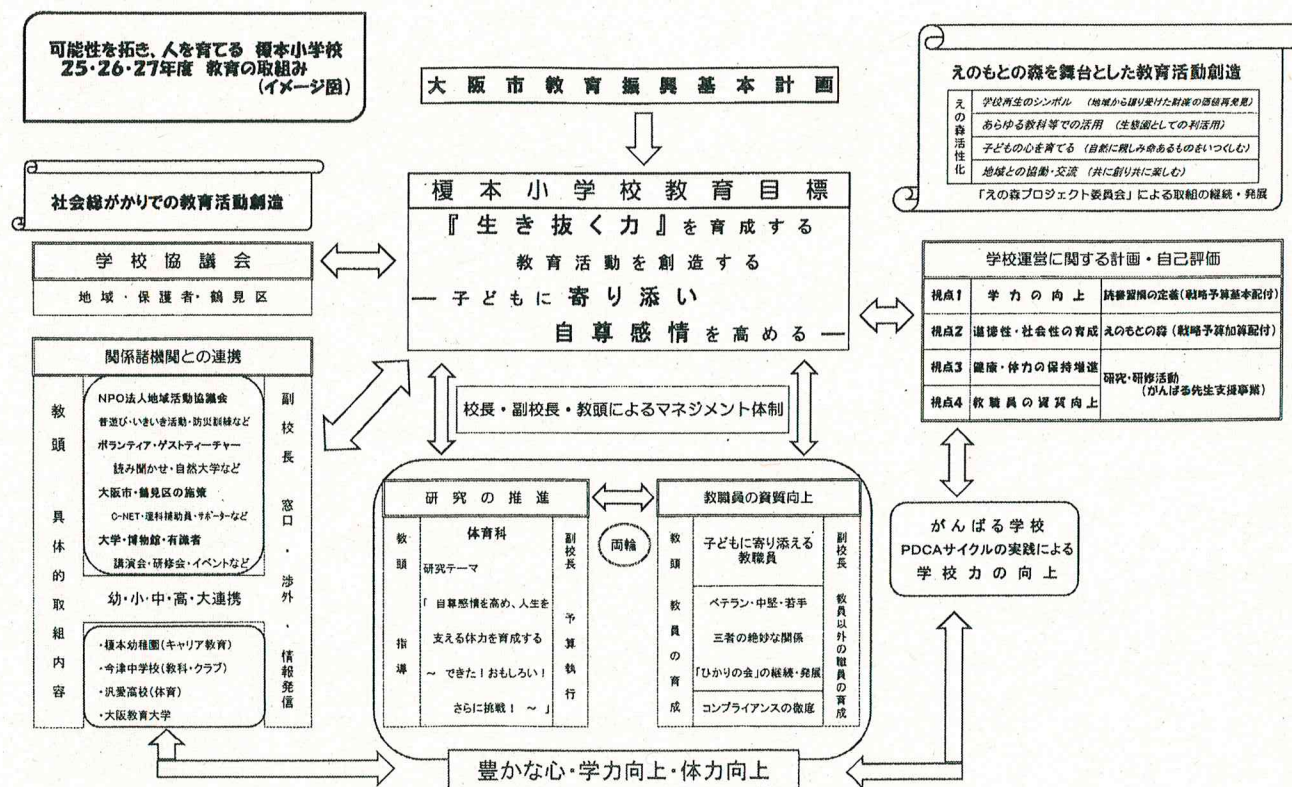
がんばる先生

◆生き抜く力とは・・・
「学力」「体力」「心の力」を総合的に駆使しながら、
人生において遭遇する困難、試練を乗り越える力

可能性を拓き、人を育てる

改革プラン

「人」とは、子ども・親・教職員のこと。したがって、子どもとともに、親・教職員も可能性を拓き、伸びていく学校を意味する。



＜図3・Ⅱ期の取組イメージ図②＞

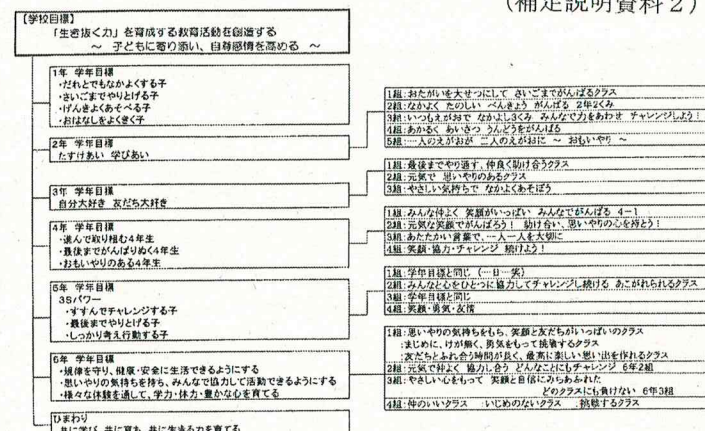
基本小学校
平成26年度

學校目標

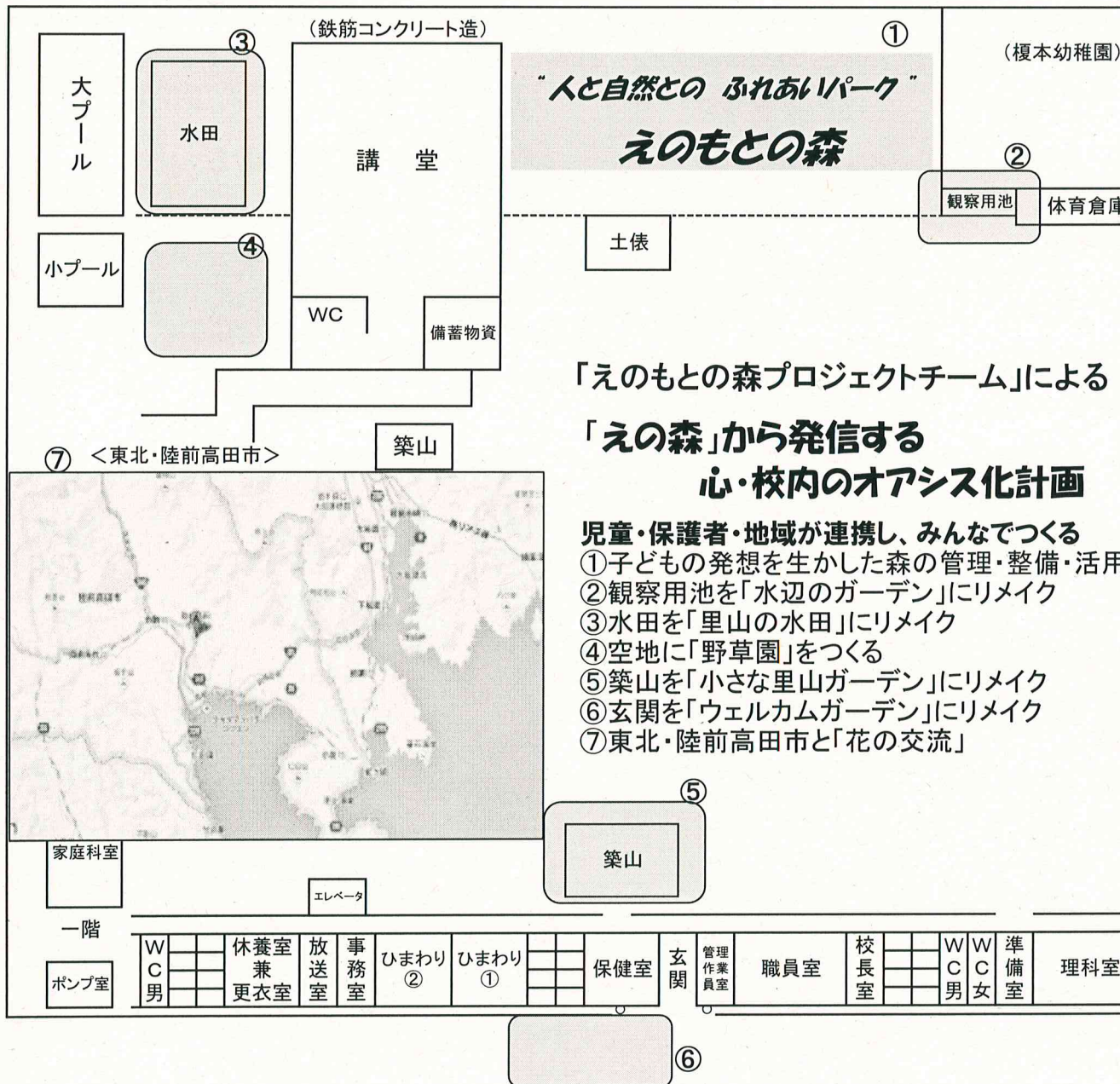
● 読年目録

● 學級目標

(補足説明資料2)



＜図4・26年度の学年、学級目標＞



「えのものの森プロジェクトチーム」による 「えの森」から発信する 心・校内のオアシス化計画

児童・保護者・地域が連携し、みんなでつくる

- ①子どもの発想を生かした森の管理・整備・活用
- ②観察用池を「水辺のガーデン」にリメイク
- ③水田を「里山の水田」にリメイク
- ④空地に「野草園」をつくる
- ⑤築山を「小さな里山ガーデン」にリメイク
- ⑥玄関を「ウェルカムガーデン」にリメイク
- ⑦東北・陸前高田市と「花の交流」

<えの森プロジェクトチーム 設立>

「えのものの森プロジェクトチーム」について

平成26年4月発足

(目的)

地域から譲り受けた財産である「えのものの森」のいっそうの活性化により、学校目標「生き抜く力」を育成する教育活動を創造する ～子どもに寄り添い自尊感情を高める～の実現に迫る。

(趣旨)

平成25年度、榎本小学校では大阪市の学校活性化事業「校長戦略予算」加算配付の承認を受け、500万円の予算を活用して、「えのものの森」の整備・活性化に取り組んできた。

今後さらに、子どもの夢や発想、教職員の創意工夫を活かし、えのものの森を、学校と保護者・地域・関係諸機関等と連携した「社会総がかり」での教育活動創造の舞台として活用したい。

(組織)

プロジェクト委員(学年1)、理科主任、生活科主任、管理作業員、事務職員、副校長により組織する。(プロジェクト委員と理科主任、生活科主任は兼ねることができる)

(具体的取組内容 案)

「えの森から発信する、心・校内のオアシス化計画」の推進

- 1 「えの森のきまり」をつくること
安全かつ自由に自然に親しむために守るべききまりを、代表委員会で話し合う。
【最低条件】 子どもたちだけで入らない。生き物を傷つけない。あぶない遊びをしない。
- 2 「えの森日記(活用の記録)」と、「年間活用計画」の策定

えの森日記の記録を
蓄積し、「年間活用計画」
の策定につなげる。

月 日()	記入者()
活用教科領域	
(内容)	
(気づいたこと)	

子どもたちの様子や、
えの森を活用しやすく
するための改善点、提案
などを記入する

- 3 草アレルギーや動物アレルギーなどの、全体的な実態把握を行う
- 4 観察用池や水田を、より有効に活用できるよう整備する
- 5 草刈りや草抜きをせず、野草や昆虫の観察ができる野草園をつくる
- 6 案内板や教室札、えの森の棚などを、子ども・保護者・地域で手づくりする
- 7 NPO法人榎本地域活動協議会が続けている陸前高田市への復興支援との連携を模索する
 - (1) 地域の「種花事業」との連携による、花づくり体験
 - (2) 種から育てた花の苗を、陸前高田市に贈り、心の交流を図る など